

津の産業



露地梨

夏の果物の代表・梨

津市南部、国道165号線周辺には夏になると「梨の直売所」が立ち並び、今回は、露地直売が中心の地域の梨を紹介する。井戸山地区では明治時代(1900年前後)に試作を開始、その後、周辺に広がり、小森山地区でも1950年に栽培が始まった。現在、井戸山・小野辺(このんべ)地区の生産者は、七十人で、作付け面積は35ha。小森山



など津南部地区では二十一人、8haだ。

完熟取れたて!

これらの地域では、生産量の約7割を直売(全国発送含む)している。市場等への出荷と違い、ギリギリまで木に生らせておき、成熟させられるという利点がある。生産者の村澤康次さんは「完熟状態で販売していますから、なるべく早く召し上がってください」と話す。

手回ひまかけて

梨栽培は、実は大変な手間がかかる。4月、白い、かわいい花が咲くと、器具や機械を使って人工受粉。5月には摘果。大きな実を作るため、余分な実を落とすのだ。そして、6月、病気・虫害の防止のため、また美しい実を収穫するために、実に袋をかける。どれもが手作業だ。生産者の加藤一朗さんは「一つひとつ、丁寧に育てています」



とほは笑む。

シーズンはずうぐ

主力品種は「幸水」と「豊水」。シャリシャリ感と甘みがセールスポイントの幸水の収穫は、8月上旬から下旬まで、甘さの中に少し酸味がある豊水は、8月末から9月下旬まで。どちらも名前の通り水分たっぷり、夏の渴きを癒してくれること間違いない。お盆のお供えやおつかいものにも最適だ。大玉で、形が丸く整っている



ものが味も良いそうで、オススメ!

夏の風物詩とも言える、この界隈の梨の直売店は70軒近くある。早いところは7月末から、お盆前には全店がオープンし、9月下旬頃まで営業する。

J A三重中央・営農生活センター 久居
電話059(255)2342、
J A津安芸・津南部営農センター
電話059(238)0678
まで。

露地梨案内地図

